

氏名	吉田昌之 よしだまさゆき
学位の種類	農学博士
学位記番号	論農博第1002号
学位授与の日付	昭和57年11月24日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
学位論文題目	木材関連産業の経済・経営分析

論文調査委員 (主査) 教授 岸根卓郎 教授 菊地泰次 教授 頼平

論文内容の要旨

本論文の目的は、木材関連産業の不安定化要因を経済面および経営面の両面から理論的、計量的に究明するために、木材関連産業のモデル分析を行い、そのシミュレーションを通じて、今後の採るべき木材関連産業対策を明らかにすることにある。この目的の下に、本論文は以下の構成内容をとる。

第1章では、経済分析の立場から、木材需要が、木材関連産業を通じて、いかなる要因によって左右されているかをモデル分析によって明らかにするとともに、そのモデルを用いて木材需要の将来予測を行った。

第2章では、同じく経済分析の立場から、産業連関分析を用いて、木材関連産業が国民経済においてどのような位置にあり、かつ他産業部門や最終需要部門とどのような相互依存関係にあるかを明らかにした。

第3章では、木材関連産業をとりまく経済的環境条件をより具体的に把握するために、木材関連産業について詳細な現状分析を行い、以後の分析に備えた。

第4章では、以上の分析結果をもとにして、木材・木製品製造業のプロトタイプ・モデルをつくり、それを製材業および合板製造業に適用し、当該産業のモデル分析を行った。

第5章では、経営分析の立場から、まず木材関連産業について各種の生産関数を計測することによって、各業種ごとの技術進歩率を明らかにし、ついで判別関数を計測することによって、各業種ごとの企業の健全性の判定要因を明らかにし、もって当該産業の経営的特質を解明した。

最後に、第6章では、以上に推定した当該産業の計量モデルを用いて当該産業の政策シミュレーションを行い、今後の採るべき経済政策ならびに経営政策について、いくつかの重要な提言を行った。

論文審査の結果の要旨

本論文は、わが国木材関連産業の再生への道を経済分析ならびに経営分析の両面から探ろうとするものである。そのため、本論文では、まず経済分析の立場から、当該産業に関する計量経済モデル分析を行い、そのシミュレーションを通じて、当該産業の再生のために必要な経済政策変数の析出を試みた。分析の結

果、そのような経済政策変数としては、最終的には、国民総生産のほかに、財政投融資住宅費、平均金利、政府住宅投資などの、いわゆる政府住宅対策費であることが解明された。つまり、これらの経済政策変数を操作することによって、木材関連産業を経済面から再生させることが可能であることが明らかにされた。

ついで、同じく経済分析の立場から、木材関連産業を中心とした産業連関分析を行い、当該産業の消長に最も強く関わる産業部門は建設産業部門であること、およびその建設産業部門はまた国内総固定資本形成によって強く影響されることが明らかにされた。その結果、産業連関分析からみた木材関連産業の再生のための経済政策変数もまた、さきの計量経済モデル分析による場合と同様、財政投融資住宅費、政府住宅投資などの政府住宅対策費であることが明らかにされた。

一方、経営分析の立場からは、当該産業の各業種について、生産関数ならびに判別関数による分析をそれぞれ行った。まず生産関数による分析からは、当該産業の各業種間の技術進歩率を計測することによって、当該産業再生への業種間政策優先順位を明らかにした。

ついで、判別分析からは、当該産業の各業種の経営成果に影響を及ぼす要因の判別を行った。その結果、いずれの業種についても、その経営成果に決定的な影響を及ぼす要因は共通して売上高対原木費率であることが明らかにされた。このことから、経営分析の面からみた当該産業再生のための経営政策変数は売上高対原木費率であることが判明した。

上記のように、本論文は木材関連産業の経済分析ならびに経営分析を通じて、当該産業の再生への道を探ろうとしたもので、林業経済学および林政学に貢献するところがきわめて大きい。

よって、本論文は農学博士の学位論文として価値あるものと認める。